

記事の下書き

著者：関 勝寿 公開日：2015 年 11 月 7 日 ソース：<https://sekika.github.io/2015/11/07/draft-and-publish/>

Jekyll で記事を公開する前に下書きを作成して保存する方法には、いくつかの流儀があって、好みで使い分けられているようだ。

1. `_drafts` フォルダを使う方法
2. YAML フロントマターに `published: false` を設定する方法
3. 未来の時間を設定する方法
4. 下書き用のブランチを作成する方法

この中で、私は 1 の方法を採用することにした。現在作業中のファイルが 1 つのフォルダの下にまとまっているのは分かりやすいと感じるためである。スクリプトを作成して、下書きのプレビューと公開を、それぞれ `_drafts` フォルダの下でコマンド一発でできるようにした。このスクリプトを使うと、[コミットログ](#) がきれいになる。また、公開時に自動的にファイル名に日付が付与されるので、下書きの時点でファイル名に日付を入れる必要がない。

のときに YAML フロントマターに `date:` フィールドを作成して追加するので、下書きには `date:` フィールドを入れない。

2. 公開するポストを、`Published on [permalink]` というコミットメッセージで `git` レポジトリにコミットする。
3. マスターブランチに `push` する。
4. 下書きのファイルを `git` レポジトリから削除する。

なお、コミットメッセージのパーマリンクは `pretty` 形式となっているので、他の形式にするためには、スクリプトの次の箇所を直接編集する必要がある。

```
Permalink=${Site_URL}`date -u +%Y/%m/%d/``echo $Filename | sed -e 's/\.\.*/\//'
```

また、サイトの URL は `_config.yml` の `url:` 行から読んでいる。

1. 下書きのプレビュー

`_drafts/Makefile` を作成した。

```
UNAME = $(shell uname)
```

```
all:
```

```
git add -A
- git commit -m draft
make preview
```

```
push:
```

```
git add -A
- git commit -m draft
git push origin master
make preview
```

```
preview:
```

```
if [ $(UNAME) = "Darwin" ]; then open http://localhost:4000/; fi
if [ $(UNAME) = "Linux" ]; then xdg-open http://localhost:4000/; fi
fi
cd ..; bundle exec jekyll serve --drafts --host localhost
```

これで、`_drafts` フォルダで `make` とすると、

- ・ `git` への `commit`
- ・ 下書き記事入りでサイトのプレビュー (Mac または Linux の場合)
- ・ サイト構築と `localhost` でのサーバー起動

を、まとめてする。 `git` については、`push` まではしないので、`push` もいっしょにしたい時には `make push` とする。プレビューをサイト構築の前にしているので、最初はプレビューが表示されないが、ブラウザによっては、サイトが構築されると自動的に再読み込みして表示してくれる。自動的にしてくれない場合には、自分で更新ボタンを押す。

2. 下書きの公開

シェルスクリプト `_drafts/pub` を作成した。`_drafts` フォルダの下で、`filename` というファイルを公開したい時には、

```
./pub filename
```

とすることで、以下の作業をまとめてできる。 `git mv` を使う場合と比べると、下書き時点のコミットログが見えなくなるのでコミットログがきれいになる。

1. `filename` を `../_posts/YY-MM-DD-Filename` にコピーする。こ